

# 日本ソーシャルワーク学会

## 2022年度 総会資料

〔日時〕 2022年7月2日（土）  
12時00分～

〔場所〕 オンライン形式（Zoom）による  
ライブ配信

### I. 議案

- 〔1〕 2021年度活動報告（案）
  - 1. 2021年度理事会開催報告
  - 2. 2021年度第38回大会開催報告
  - 3. 2021年度委員会活動報告
  - 4. 2021年度会員異動報告
  
- 〔2〕 2021年度決算報告（案）
  - 1. 2021年度収支決算報告 [別紙資料1]
  - 2. 2021年度監査報告 [別紙資料2]
  
- 〔3〕 2022年度活動計画（案）
  - 1. 2022年度役員体制
  - 2. 2022年度委員会体制
  - 3. 2022年度委員会活動計画
  - 4. 2022年度第39回大会について
  
- 〔4〕 2022年度予算（案） [別紙資料3]
  
- 〔5〕 次回（2023年度・第40回）大会（案）

### II. 報告事項

- 1. 『『ウクライナ危機』に関する会長声明（2022年3月19日）』について
- 2. 「ウクライナにおける人道回廊について（緊急要請）（2022年3月28日）」について
- 3. 諸機関・団体からの寄贈資料等
- 4. 寄贈図書

## I. 議案

### 議案〔1〕 2021年度活動報告(案)

#### 1. 2021年度理事会開催報告

第1回：2021年5月23日(日)13時～15時30分(\*web会議)

〔内容〕学術奨励賞の選考、2020年度活動報告、2021年度委員会構成の確認、2021年度活動計画、会員の異動ほか

第2回：2021年7月10日(土)18時～20時(\*web会議)

〔内容〕2020年度活動報告&決算報告、2021年度活動計画&予算、会員の異動ほか

第3回：2021年11月14日(日)18時～20時(\*web会議)

〔内容〕各委員会活動報告&予定、役員選挙の実施について、会員の異動ほか

第4回：2022年1月9日(日)17時～19時(\*web会議)

〔内容〕役員選挙結果&推薦理事の選出、各委員会活動報告&予定、会員の異動ほか

第5回：2022年3月28日(日)18時～20時30分(\*web会議)

〔内容〕2022年度役員体制&委員会体制、「ウクライナ危機」に関する会長声明、各委員会より活動報告&予定、会員の動向、次期各委員会メンバーでの打ち合わせほか

#### 2. 2021年度第38回大会開催報告

以下のとおり第38回大会を開催した。138名の参加があった。

大会日時：2021年7月17日(土)・18日(日)

大会テーマ：「ソーシャルワークの新たな地平—継承と刷新—」

大会担当：日本ソーシャルワーク学会・第38回大会実行委員会(オンライン開催)

第38回大会実行委員会代表：志水幸(本学会副会長：北海道医療大学)

プログラム

[1日目：7月17日(土)]

基調講演「新倫理綱領の到達点と今後の課題」

保良昌徳氏(日本ソーシャルワーカー協会会長、日本ソーシャルワーカー連盟倫理綱領委員長)

学会企画シンポジウム①

テーマ「ソーシャルワーク教育の新しいグローバル・スタンダードの可能性について検討する」

シンポジスト

テーマ①「グローバル・スタンダードの更新プロセスの経緯と注目すべき新しい内容(仮)」

木村真理子(IFSWSW教育諮問委員会アジア太平洋地域代表・日本女子大学名誉教授)

テーマ②「新しいグローバル・スタンダードと養成教育カリキュラム見直しの比較(仮)」

空閑浩人(本学会副会長・社会福祉士養成課程教育内容等見直し作業チーム委員・同志社大学教授)

テーマ③「ソーシャルワーク教育の課題と新しいグローバル・スタンダードの示唆(仮)」

和気純子(本学会理事・IASSW理事・日本ソーシャルワーク教育学校連盟副会長・東京都立大学教授)

テーマ④「新しいグローバル・スタンダードに対する日本の実践現場の期待(仮)」

中島康晴(日本ソーシャルワーカー連盟・NPO法人「地域の絆」代表理事)

コーディネーター：Virág Viktor(ヴィラーグ・ヴィクトル)(本学会理事・長崎国際大学講師)

2021年度学会総会

[2日目：7月18日(日)]

学会企画シンポジウム②

テーマ「福祉課題解決に向けた変革プログラムの発展に有効な形成的評価の方法～実践家参画型エンパワメント評価と、その基盤を支える中間支援組織の役割～」

【報告1】「実践家参画型で進める形成的評価法の可能性～評価アプローチ法の概要と実施基盤を支える中間支援組織の機能と役割～」大島巖（東北福祉大学）、新藤健太氏（群馬医療福祉大学）、贅川信幸氏（日本社会事業大学）、源由理子氏（明治大学）

【報告2】「生活困窮者自立支援相談事業に導入された実践家参画型形成的評価の成果と、その成果生成を支える中間支援組織の機能と役割」新藤健太氏（群馬医療福祉大学）、池本修悟氏・池田徹氏（ユニバーサル志縁センター）、源由理子氏（明治大学）

【報告3】「精神障害者家族への心理教育プログラムの実装を促進するコンサルテーションのあり方～EBPプログラム実装の成果を支える中間支援組織の機能と役割」仁科雄介氏（日本福祉教育専門学校）、贅川信幸氏・増田奈美氏（日本社会事業大学）、大島巖（東北福祉大学）

<指定発言者>

宮城孝氏（法政大学教授）

今田克司氏（株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役）

久保美紀氏（明治学院大学教授、本学会副会長）

<コーディネーター>

大島巖氏（本学会副会長・東北福祉大学副学長） 贅川信幸氏（日本社会事業大学准教授）

自由研究発表

### 3. 2021年度委員会活動報告

#### (1) 研究推進第1委員会（\*は役員以外の委員）

委員長：久保美紀（副会長）

委員：大谷京子 岡田まり 岡本民夫 木村容子 和気純子

・学会誌編集委員会 和気純子 大谷京子 岡田まり（\*加山弾 \*梅崎薫）

・学会賞選考委員会 木村容子 小山隆 久保美紀（\*木村真理子 \*片岡靖子 \*川島ゆり子）

・研究奨励委員会 大谷京子

#### ○学会誌編集委員会

・第42号を2021年7月に発刊した

（グッドプラクティショナー1本、書評1本、書評リプライ1本を掲載）

・第43号を2021年12月に発刊した

（調査報告1本、実践報告1本、グッドプラクティショナー1本、書評1本を掲載）

・第44号（2021年12月末投稿締切）より、投稿・査読の過程を電子化することとした。

・投稿、査読の電子化に伴って『『ソーシャルワーク学会誌』投稿規程』及び『機関誌『ソーシャルワーク学会誌』執筆要領』の一部修正を行った（2021年7月10日付）

・第44号（2021年12月末投稿締切：投稿原稿10本（論文：7本、実践報告：1本、資料解題：2本）の発刊に向けて査読等を行った。

#### ○学会賞選考委員会

・2021年度の学会賞は、選考の結果いずれの賞（学術賞、学術奨励賞）も該当者なしとなった

・2022年度にむけて、会員からの推薦（締切：2022年1月末日）を含めて選考作業を行った

#### ○研究奨励委員会

・会員研究奨励費について（2021年5月末日締切）2件の申請があり、第1委員会全体で審査を行い、1件が採択、理事会で承認され、研究費助成の対象となった

（申請研究テーマ「協議会による社会資源の改良・開発過程に関する研究—ソーシャルワークに焦点を当てて—」）

・2022年度の会員研究奨励費の募集をMM、HPなどで行った（応募締切は2022年5月末日）

#### (2) 研究推進第2委員会

委員長：志水 幸（副会長）

委員：荒井浩道 池田雅子 白川充 杉野聖子 横山登志子 ヴィクトル・ヴィラーク

## ○大会企画

①2021 年度第 38 回大会の開催

②2022 年度第 39 回大会について、以下の通り内容の企画や調整を行った

2022 年度第 39 回大会（青森大会）

期日：2022 年 7 月 2 日（土）～3 日（日）に開催予定

会場：青森県立保健大学（青森県青森市浜館字間瀬 58-1）

実行委員会：児玉寛子（委員長・青森県立保健大学教授）、工藤英明（事務局長・同大准教授）、  
宮本雅央（委員・同大講師）、田中志子（委員・青森大学教授）

開催形式：オンライン開催

テーマ：「人口減少地域におけるソーシャルワークの創造性」

## ○研究集会企画

以下の通り、研究セミナーを開催した。

国際研究セミナー「国際的な舞台におけるソーシャルアクションーソーシャルワーカーによる国連ア  
ドボカシーと SDGsー」

日時：2022 年 1 月 22 日（土）15 時～17 時 40 分（日本標準時間）

オンライン（Zoom ウェビナー）

共催・後援【共催】日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（B）『多文化共生ケアシステムに  
おけるグローバルソーシャルワークの理論的・実証的研究』（19H01590）

【後援】日本ソーシャルワーカー連盟（JFSW）4 団体

国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW） 国際協力機構（JICA）

参加申込者数：354 人 当日アクセス数：149 人

プログラム

開会挨拶：（主催者）黒木保博氏（本学会監事・国際委員長）（長野大学教授・同志社大学名誉教授）

趣旨説明：ヴィラーク・ヴィクトル氏（本学会理事、長崎国際大学講師）

基調講演：プリスカ・フライシュリン氏（IFSW 国連諮問委員長、株式会社 WoBe 取締役）

アジア太平洋報告：セバステアーン・コルドバ氏（IFSW アジア太平洋地域国連代表、  
RMIT 大学講師）

日本の国内報告：高嶺豊氏（日本ソーシャルワーカー協会国際委員、  
沖縄ソーシャルワーカー協会理事長・エンパワメント沖縄理事長）

質疑応答・ディスカッション

総括コメント・閉会挨拶（共催者）：和気純子氏（科研費研究代表・本学会理事、東京都立大学教授）

## ○共同研究活動

以下の通り、共同研究に取り組んだ

「レジデンシャル・ソーシャルワーク共同研究」

（全国母子生活支援施設協議会と本学会との共同研究）（担当：白川充）

テーマ

「母子生活支援施設におけるソーシャルワーク実践の枠組みとその構築のための検討課題」

\*仙台ワーキングチームと京都ワーキングチームとに別れて研究活動を行った。

・仙台ワーキングチーム

・継続して研究会を開催してきた（事例の分析・検討およびインタビュー調査）

・京都ワーキングチーム

・7 月 8 日（水）および 11 月 12 日（金）に研究会を開催した

・京都市母子生活支援施設合同研修会（12 月 1 日（13:00～16:30））に白川理事、空閑理事が参加

### (3) 研究推進第3委員会

委員長：大島 巖（副会長）

委員：浅野貴博 池田雅子 佐藤俊一 白川 充 保正友子 野村裕美

- ・出版・教材開発班：保正友子 池田雅子 佐藤俊一 白川 充
- ・社会貢献推進班：大島巖 浅野貴博 野村裕美

#### ○出版・教材開発班

- ①2021年6月5日（土）に開催された第69回日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会（千葉大会）で研究ワークショップ（「医療ソーシャルワーカーのための実践研究ワークショップ」12時30分～16時30分：オンラインライブ配信）を実施した
- ②「実践研究支援ワークショップ」を次の日程で実施した（オンライン開催）  
15名の参加があった
  - ・1日目：2022年2月13日（日）13:00-17:00
  - ・2日目：2022年3月6日（日）13:00-17:00

#### ○社会貢献推進班

- ①2021年度のソーシャルワーク・コラボセミナーを「救急認定ソーシャルワーカー認定機構」との共催で実施した  
日 時：2022年3月21日（月・祝）13:00～17:00 オンライン開催  
テーマ：実践者と研究者の対話（クロストーク）で拓く ESW の「実践理論」～「社会的救命」に資する力量あるソーシャルワーカーを目指して～  
当日参加者：159名、動画視聴回数（2022年4月末まで公開）：130回  
プログラム

総合司会：南本宣子氏（救急認定ソーシャルワーカー認定機構理事、済生会京都府病院）

開会挨拶：小山隆氏（本学会会長、同志社大学）

#### 【(前半) 話題提供】

\*その1：ESWへの期待、医師の立場から

- ・「救急認定ソーシャルワーカー（ESW）が創設された背景」  
定光大海氏（救急認定ソーシャルワーカー認定機構代表理事 堺平成病院）
- ・「社会的救命」に資するソーシャルワーカーへの期待」  
大西光雄氏（日本臨床救急医学会 大阪医療センター救急救命センター）

\*その2：ESWの実践枠組み

- ・野村裕美氏（救急認定ソーシャルワーカー認定機構理事/本学会理事、同志社大学）

#### 【(後半) クロストーク】

\*実践報告

- 1) 篠原純史氏（救急認定ソーシャルワーカー認定機構副代表理事 高崎総合医療センター）
- 2) 高橋裕美氏（救急認定ソーシャルワーカー認定機構理事 大阪大学医学部附属病院）
- 3) 太田裕子氏（救急認定ソーシャルワーカー認定機構理事 大阪医療センター）

\*対論～研究者からのメッセージ～

- 1) 「実践の省察の視点から」浅野貴博氏（本学会理事 ルーテル学院大学）
- 2) 「実践の評価の視点から」大島巖（本学会副会長 東北福祉大学）

\*みなさんとのクロストーク コーディネーター 野村裕美氏（同志社大学）

閉会挨拶

### (4) 国際委員会

委員長：黒木保博

委員：浅野貴博 岡田まり ヴィクトル・ヴィラーグ

\*研究推進第2委員会と共同して、国際研究セミナー「国際的な舞台におけるソーシャルアクションー

「ソーシャルワーカーによる国連アドボカシーとSDGs」(2022年1月22日(土))をオンライン  
(Zoomウェビナー)で開催した

#### (5) 研究倫理委員会 (\*は役員以外の委員)

委員長：久保美紀(副会長)

委員：佐藤俊一(\*松倉真理子)

- ・会員に対して研究倫理にかかわる啓発に努めた。
- ・2021年度は研究倫理上の問題は発生しなかった。

#### (6) 総務委員会

委員長：空閑浩人(副会長)

委員：荒井浩道 保正友子 横山登志子 杉野聖子 野村裕美

庶務担当：野村裕美 委託業者(株)ワールドプランニング

##### ① ニュースレターの発行

- ・130号(2021年6月10日)、131号(2021年10月1日)、132号(2022年3月10日)を発行した

##### ② メールマガジン(MM)の配信

- ・第90号(2021年4月)～第101号(2022年3月)の毎月の配信及び臨時号「日本ソーシャルワーク学会2021年度役員選挙投票のお願い(2021年12月)」の配信を行った

##### ③ ホームページの運営管理

- ・大会、コラボ、セミナー等資料、ニュースレターのアップその他コンテンツの充実等に努めた

##### ④ 学会広報(会員拡大)のための「プロモーション動画」作成

- ・会員拡大、学会およびソーシャルワークの魅力発信等のための学会広報動画を作成した(2021年7月完成・ホームページに掲載)

##### ⑤ 以下の日程で、2021年度役員選挙を実施した

###### 【2021年度役員選挙スケジュール】

①2021年7月：選挙管理委員選出(7月17日総会報告) 工藤英明会員、狩野晴子会員、口村淳会員

②2021年10月2日(土)17:00～18:00 第1回選挙管理委員会開催

③2021年10月：会員調査の実施、選挙人・被選挙人名簿確定&投票システム設定等確認

④2021年11月末：会員名簿、公示文書、投票実施要領、投票システム用圧着はがきの発送

⑤2021年12月1日：公示 ⑥2021年12月6日(0時)から12月20日(24時)：投票

⑦2021年12月21日(火)18:00～19:00：第2回選挙管理委員会の開催&開票

⑧選挙当選人への理事・監事就任の打診 ⑨2022年1月7日(土)正副会長会議で報告

⑩2022年1月8日(日)：理事会で報告・当選理事承認および理事会推薦理事の協議

⑪2022年3月：学会ホームページ&ニュースレターで選挙結果の公示

##### ⑥ その他・庶務事項等

1) 学術論文データベース(EBSCOhost: "エブスコHOST")の本学会誌掲載論文の収録に関する契約手続きを行った。2022年度にデータベースへの収録作業に入る予定

2) (株)ワールドプランニングへの業務委託について

・委託している業務内容

① 会員管理、② 学会経費等の経理業務、③ 学会事務用品の管理、④ 学会事務運営

・2021年度分の会費入金率：93.9%

・2021年度分の会費請求(2月、7月、11月の年3回請求)

#### (7) 正副会長会議

会長 小山 隆

副会長 大島 巖 久保美紀 志水 幸 空閑浩人

##### ① 正副会長会議の開催報告

第1回：2021年5月16日（日）17時～18時30分（\*web会議）

第2回：2021年7月10日（土）17時～18時（\*web会議）

第3回：2021年11月13日（土）17時～18時30分（\*web会議）

第4回：2022年1月8日（土）17時～18時30分（\*web会議）

第5回：2022年3月19日（土）10時～12時（\*web会議）

- ・各委員会の事業の進行管理の他、理事会の体制強化、学会の企画広報、職能団体との連携強化等の学会運営の課題（特命事項）について取り組みを検討した。

#### ②特命事項と担当副会長

- ・理事会の体制強化&職能団体との連携（大島 巖）
- ・学会資料のアーカイブ化（久保美紀）
- ・他学会との連携（志水 幸）
- ・学会広報&会員拡大（空閑浩人）

## 4. 2021年度会員異動報告

①2021年度入会者 45名（正会員43名・準会員2名）

②2021年度退会者 34名

③2022年3月31日現在の会員数

- ・総会員数 611名
- ・正会員605名 準会員4名 賛助会員2団体

## 議案〔2〕 2021年度 決算報告（案）

### 1. 2021年度収支決算報告 [別紙資料1]

- ・一般会計の部
- ・特別会計（学会賞）の部 ・特別会計（出版）の部

### 2. 2021年度監査報告 [別紙資料2]

2022年6月24日（金）岡本民夫監事、黒木保博監事による監査が行われ、監査報告書が提出された。

## 議案〔3〕 2022年度活動計画（案）

### 1. 2022年度役員体制

役職	氏名	理事・役員 任期	備考
会長	小山 隆	2022.7.2～2026.総会終了時	
副会長	久保 美紀	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第1委員会・委員長／研究倫理委員会委員長
	和気 純子	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第2委員会・委員長
	大島 巖	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第3委員会・委員長
	空閑 浩人	2020.7.4～2024.総会終了時	総務委員会・委員長

理事	大谷 京子	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第1委員会
	岡田 まり	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第1委員会
	木村 容子	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第1委員会／研究推進第3委員会
	川島ゆり子	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第1委員会／研究推進第3委員会
	荒井 浩道	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第1委員会／研究推進第2委員会
	池田 雅子	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第3委員会／総務委員会
	白川 充	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第2委員会／研究推進第3委員会
	杉野 聖子	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第2委員会／総務委員会
	横山登志子	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第2委員会／総務委員会
	ヴィラーグ ・ヴィクトル	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第2委員会／国際委員会
	志水 幸	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第2委員会／国際委員会
	佐藤 俊一	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第3委員会／研究倫理委員会
	保正 友子	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第3委員会／総務委員会
監事	福山 和女	2022.7.2～2024.総会終了時	研究推進第1委員会
	黒木 保博	2022.7.2～2026.総会終了時	国際委員会・委員長
庶務担当理事	小野セレストア摩耶	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第3委員会／総務委員会

## 2. 2022年度委員会体制（\*は役員以外の委員）

### ①研究推進第1委員会

委員長：久保美紀（副会長）

委員：荒井浩道 大谷京子 岡田まり 木村容子 川島ゆり子 福山和女

- ・学会誌編集委員会 ◎大谷京子 岡田まり 木村容子 荒井浩道（\*加山弾 \*梅崎薫）
- ・学会賞選考委員会 川島ゆり子 小山隆 久保美紀（\*木村真理子 \*片岡靖子 \*奥村賢一）
- ・研究奨励委員会 岡田まり

### ②研究推進第2委員会

委員長：和気純子（副会長）

委員：荒井浩道 ヴィクトル・ヴィラーグ 志水幸 白川充 杉野聖子 横山登志子

### ③研究推進第3委員会

委員長：大島 巖（副会長）

委員：池田雅子 木村容子 佐藤俊一 白川 充 保正友子 川島ゆり子 小野セレストア摩耶  
（\*浅野貴博 \*野村裕美）

### ④国際委員会

委員長：黒木保博

委員：ヴィクトル・ヴィラーグ 志水幸（\*浅野貴博 \*松尾加奈）

### ⑤研究倫理委員会

委員長：久保美紀（副会長）

委員：佐藤俊一（\*稲垣美加子 \*松倉真理子）

### ⑥総務委員会

委員長：空閑浩人（副会長）

委員：池田雅子 杉野聖子 保正友子 横山登志子 小野セレストア摩耶

庶務担当：小野セレストア摩耶 委託業者（株）ワールドプランニング

### 3. 2022 年度委員会等活動計画

#### (1) 正副会長会議

- ・学会運営について情報を共有し円滑に活動を進めるよう、3 か月に 1 回程度会議を開催し協議する
- ・各委員会の事業の進行管理の他、理事会の体制強化、学会の企画広報、職能連携、他学会との連携等の学会運営の課題（特命事項）について取り組んでいく。
- ・特命事項と担当副会長
  - ・職能団体との連携（大島 巖）
  - ・学会資料のアーカイブ化（久保美紀）
  - ・他学会との連携（和気純子）
  - ・組織強化&学会広報（空閑浩人）

#### (2) 研究推進第 1 委員会

委員長：久保美紀（副会長）

委員：荒井浩道 大谷京子 岡田まり 木村容子 川島ゆり子 福山和女

##### 1. 学会誌編集委員会

（委員長：大谷京子 編集委員：岡田まり 木村容子 荒井浩道 加山弾会員 梅崎薫会員）

①学会誌発行に向けての作業：44 号・45 号を学会ホームページ上に電子ジャーナルとして発行する。  
あわせて、J-stage、EBSCOhost にも搭載する

②査読委員の委嘱：査読委員の任期満了に伴い、新たに委員の委嘱を行う

③会員の積極的投稿を促すとともに、学会誌の質の向上を図る

④学会誌を通して、会員の研究成果をより広く社会に発信できるように努める

⑤投稿規程・執筆要領の継続的な検討を行う

##### 2. 研究奨励委員会（担当理事：岡田まり）

①会員の個人研究及び共同研究の促進のため、2022 年度会員研究奨励費の申請を受け付け審査し、選考を行う。

##### 3. 学会賞選考委員会

（委員長：木村真理子 選考委員：川島ゆり子 小山隆 久保美紀 片岡靖子会員 奥村賢一会員）

①2022 年度の学会賞は、選考の結果いずれの賞（学術賞、学術奨励賞）も該当者なしとなった。

②2023 年度学会賞の選考を行う。

#### (3) 研究推進第 2 委員会

委員長：和気純子（副会長）

委員：荒井浩道 ヴィクトル・ヴィラーグ 志水幸 白川充 杉野聖子 横山登志子

##### 1. 2022 年度第 39 回大会（青森大会）関連

・開催校の青森県立保健大学との協議を行ってきた

・自由研究発表は、1 分科会 4～5 件の報告（報告 20 分、質疑 10 分）で 3 分科会とする。

##### 2. 2022 年度研究セミナー企画について、新体制で企画・実施する

##### 3. 共同研究

・全母協との共同研究は 2021 年度をもって終了

・青森大会で、2 件の自由研究発表を予定しており、報告書を作成予定

##### 4. 2023 年度第 40 回大会開催校について調整、打診を行う

#### (4) 研究推進第 3 委員会

委員長：大島 巖（副会長）

委員：池田雅子 木村容子 佐藤俊一 白川 充 保正友子 川島ゆり子 小野セレスタ摩耶  
浅野貴博会員 野村裕美会員

## 1. 出版・教材開発班

- ・「2022年度日本ソーシャルワーク学会実践研究支援ワークショップ」を企画・実施する
- ・開催予定〔1日目〕2022年10月9日（日）13時～17時  
〔2日目〕2022年11月13日（日）13時～17時  
〔3日目〕2022年12月25日（日）13時～16時
- ・実施方法：オンライン（Zoom）による開催

## 2. 社会貢献推進班

- ・2022年度「ソーシャルワーク・コラボセミナーin青森」を企画・実施する

## (5) 国際委員会

委員長：黒木保博

委員：ヴィクトル・ヴィラーグ 志水幸 浅野貴博会員 松尾加奈会員

1. 他学会・大学・研究所等の国際セミナーへの共催、協賛を通じて学会としての国際活動に取り組む
  - ・2022年度国際シンポジウムの開催予定  
テーマ「ソーシャルワークと戦争～避難民支援をめぐる実践・教育のグローバル連携～（案）」  
日時：11月12日（土）17時～19時（予定）オンライン開催
2. 国際セミナー隔年開催に向けた準備、企画を検討する

## (6) 研究倫理委員会

委員長：久保美紀（副会長）

委員：佐藤俊一 稲垣美加子会員 松倉真理子会員

- ①会員に対して研究倫理にかかわる啓発に努める。
- ②研究倫理指針の改訂作業を行う。
- ③研究倫理上の問題への的確な対応を図る。

## (7) 総務委員会

委員長：空閑浩人（副会長）

委員：池田雅子 杉野聖子 保正友子 横山登志子 小野セレストア摩耶

庶務担当：小野セレストア摩耶

1. ニュースレターの発行  
2022年度は、第133号（6月）、134号（10月）、135号（2023年3月）発行予定
2. ホームページの運営管理
  - ・大会、コラボ、セミナー等資料、ニュースレターのアップなど、2022年度も引き続きコンテンツや内容の充実に努める
3. メールマガジンの配信
  - ・2022年4月（102）号および5月（103）号発行済
  - ・2022年度も引き続き、毎月（月初めに）配信予定
  - ・フェイスブックなどSNSを活用した情報発信にも努める
4. 『ソーシャルワーク研究』誌の継続について
  - ・中央法規出版が『ソーシャルワーク研究』誌を継承し、日本ソーシャルワーク学会、日本ソーシャルワーカー連盟、日本ソーシャルワーク教育学校連盟が編集・広報協力団体となり、刊行することになった。現購読者には案内済み
  - ・雑誌の構成については、従来の構成を踏襲する。各団体の担当枠として、活動報告などの紹介記事を掲載予定
  - ・リニューアル第1号については、2023年1月刊行予定。9月には案内できるように準備する
  - ・経費については、本学会からの2022年度予算に、『ソーシャルワーク研究』誌編集委託費として、20万円を計上する

#### 5. その他庶務関係事項等

- ・業務の一部を㈱ワールドプランニングに委託しており、2022年度も継続して委託する
- ・委託する業務内容は  
①会員管理 ②学会経費等の経理業務 ③学会事務用品の管理 ④学会事務運営

#### 4. 2022年度 第39回大会について

- ・日時：2022年7月2日（土）～3日（日）
- ・開催校：青森県立保健大学 開催方式：オンライン開催
- ・大会テーマ「人口減少地域におけるソーシャルワークの創造性」

#### 議案〔4〕 2022年度 予算（案）[別紙資料3]

- ・一般会計の部
- ・特別会計（学会賞）の部
- ・特別会計（出版）の部

#### 議案〔5〕 次回（2023年度・第40回）大会について

以下の日程と会場で、東北福祉大学が大会校となり、地域のソーシャルワーク職能団体等のご協力も得ながら開催させて頂ければと思います。

■日程：2023年7月8日（土）～9日（日）

■会場：東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス

■大会長：千葉公慈学長（東北福祉大学）

大会テーマとしては、以下のようにソーシャルワーク専門職の継続学習、生涯学習、リカレント教育と、本学会や、福祉系大学の役割について皆さんと一緒に議論できるテーマを設定したいと考えております。

（大会テーマ仮題）「現場で学び続けて「実践力&実践研究力」を身につける～力量あるソーシャルワーカーのこれからの生涯学習支援を考える～」

## II. 報告事項

### 1. 『ウクライナ危機』に関する会長声明（2022年3月19日）について

『ウクライナ危機』に関する会長声明（2022年3月19日）を發出して学会ホームページに掲載した

#### 「ウクライナ危機」に関する会長声明

2022年3月19日

日本ソーシャルワーク学会 会長 小山 隆

前年春から緊張を高めていた、ロシア・ウクライナ間の軍事的緊張は、2022年2月24日のロシアによるウクライナへの全面侵攻をもって、世界の大方の了解する限度を超えるに至り、各国のソーシャルワーク関係団体も様々な内容の声明、呼びかけを行っています。

以下に日本ソーシャルワーク学会会長としての声明を出します。

第一に、「侵略」「戦争」という言葉を使うか否かに関わらず、他国に対して振るわれる「国家による暴力」は（自国民に対する国家の暴力も含めて）、理由の如何を問わず非難され否定されるべきことです。まずは、市民を巻き込む国家レベルの「戦争」状態は一刻も早く終結されるべきと強く訴えます。

第二に、2月24日以降の軍事的侵攻によって現実に発生しているウクライナに住む人々が受けた甚大な被害は看過できません。300万を超えるウクライナ難民を受け入れる近隣国の負担も大きく、問題解決後も破壊されたインフラなどの復興には気の遠くなる時間と努力が必要に

なります。

また、経済制裁を受けたロシア国民の被害も実は少なくありません。加害国、被害国、近隣国といった立場を越えて被害を受けるのは、そこで生活する人々です。

そのことに心を致すことの大切さを強調したいと思います。

一例として、日本赤十字社の「ウクライナ人道危機救援金」、日本 UNICEF 協会の「ウクライナ緊急募金」、国連 UNHCR 協会の「ウクライナ緊急事態」への募金等もご検討ください。

(3月28日理事会承認)

## 2. 「ウクライナにおける人道回廊について（緊急要請）（2022年3月28日）」について

「ソーシャルケアサービス従事者研究協議会」からの、「ウクライナにおける人道回廊について（緊急要請）（2022年3月28日）」に、日本ソーシャルワーク教育学校連盟会長、日本ソーシャルワーカー連盟会長、日本社会福祉学会会長との連名で、本学会会長名を掲載した

2022年3月28日

国連事務次長(人道問題担当)

国連人道問題調整事務所 (OCHA) 所長・緊急援助調整官

マーティン・グリフィス 様

### ウクライナにおける人道支援回廊について（緊急要請）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟、日本ソーシャルワーカー連盟、日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会は、国際ソーシャルワーク学校連盟 (IASSW)、国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) 等の国際的なソーシャルワーク機関と連携し、ソーシャルワーク教育者、実践者、研究者、学生らとともに社会福祉課題の解決に取り組んでいます。IASSW および IFSW は、人間の幸福と平和を促進するという理念のもと、国連の ECOSOC における一般協議資格を有し、国連の活動にも長年たずさわっています。

周知のとおり、今般のプーチンによるウクライナ侵攻により、現地では、罪のない人々が絶え間ない砲撃にあい、家や生活の場を破壊されるという恐怖に晒されています。とりわけ、子ども、高齢者、障害、疾病など多様なニーズをもち、日頃より日常生活に支援が必要な人々は、自力で避難することが難しく、その多くはウクライナ国内に留まっているものと思われる。現在、マリウポリ、ケルソン、ハリコフなどいくつかの地域では、水、食料、電気、情報などの生活に必要なライフラインが遮断され、周囲からの支援がない状態で孤立し、取り残された人々が生命の危機に直面しています。こうした状況に鑑み、私たちは、この戦争の即時停止を要請するとともに、**緊急にウクライナ政府の管理下に人道支援回廊を設置**していただくようお願い致します。

私たちは、国際ソーシャルワーク学校連盟 (IASSW)、国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) との連携のもと、すでに募金活動を開始していますが、今後、さらに国内外の機関や専門職と連携し、避難民への支援やソーシャルワーク専門職や学生への教育、市民への啓発活動に取り組んでいく予定です。そのためにも、**安全な人道支援回廊の一刻も早い確保が急務です。**何卒ご高配いただきますようお願い申し上げます。

日本ソーシャルワーク教育学校連盟会長 白澤政和

日本ソーシャルワーカー連盟会長 西島善久

日本社会福祉学会会長 木原活信

日本ソーシャルワーク学会会長 小山隆

### 3. 諸機関・団体からの寄贈資料等

- ・特定非営利活動法人日本地域福祉研究所「コミュニティソーシャルワーク」28, 29号
- ・一般財団法人社会福祉研究所「所報」第100号
- ・特定非営利活動法人医学中央雑誌刊行会「医学中央雑誌収載誌目録2022」
- ・公益財団法人ユニバーサル財団「2022年度研究助成：すべての人が希望に生きる未来へ」
- ・独立行政法人日本学術振興会「第13回日本学術振興会育志賞受賞候補者の推薦について」
- ・独立行政法人日本学術振興会「第19回日本学術振興会賞受賞候補者の推薦について」
- ・公益財団法人日本学術協力財団「学術の動向」第26巻第8～12号, 第27巻第1～6号
- ・公益財団法人日本学術協力財団「学術会議叢書29 人文社会科学とジェンダー」
- ・公益財団法人長寿科学振興財団「令和5年度長寿科学研究者支援事業」
- ・厚生労働省母子保健医療対策総合支援事業子どもの心の診療ネットワーク事業中央拠点病院主催研修会「思春期のうつへのアウトリーチ」
- ・公益社団法人日本社会福祉士会「日本社会福祉士会NEWS」No.201～204
- ・特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会「2022年度年次大会 In 東京」後援資料
- ・公益財団法人日本証券奨学財団「2022年度研究調査助成および研究出版助成募集」

### 4. 寄贈図書

- ・木下大生（2020）「認知症の知的障害者への支援『獲得』から『生活の質の維持・向上』へ」（ミネルヴァ書房）
- ・ブルース・A.ティア著，舟木紳介・木村真希子（2021）「ソーシャルワーク研究のためのポケットガイド；論文を書く・投稿する」（新曜社）
- ・中園桐代（2021）「シングルマザーの貧困はなぜ解消されないのか；『働いても貧困』の現実と支援の課題」（勁草書房）
- ・衣笠一茂（2021）「ソーシャルワークの方法論的可能性；『実践の科学化』の確立を目指して」（明石書店）
- ・松為信雄（2021）「キャリア支援に基づく職業リハビリテーションカウンセリング；理論と実際」（ジアース教育新社）
- ・南野奈津子（2022）「女性移住者の生活困難と多文化ソーシャルワーク；母国と日本を住環するライフストーリーをたどる」（明石書店）
- ・副田あけみ・菅野花恵（2022）「介護職・相談援助職への暴力とハラスメント」（勁草書房）
- ・山田恵子（2022）「スクールソーシャルワークの実践と理論；養育困難家庭の不登校児の学習権保障をめぐって」（明誠書林）
- ・篠原拓也，松本喜一（2022）「スモールステップで学ぶソーシャルワーク実習；テキスト&ワークブック」
- ・木村真理子，小原真知子，武田丈（2022）「国際ソーシャルワークを知る；世界で活躍するための理論と実践」